



#### ④三陸のマグロはすごいんです

今回のお話はクロマグロです。

マグロ類は、岩手県では平成22年に約5千5百トンの水揚げがありました。最も多かったタラ類(約2万4千トン)に比べると大した量ではありませんが、金額ではサケ・マス類の7億5千万円に次ぐ約4億円になりました。このようにマグロ類は岩手県で重要な水産資源となっているわけですが、なかでもクロマグロは高品質のため、とくに高値で取引されます。昭和初期の美食家・北大路魯山人も三陸のマグロ、それも「岸網もの」が一番美味いと言っています(「魯山人の食卓」グルメ文庫)。「岸網」とは定置網のこと、定置網漁とは沿岸に仕掛けた網に獲物をおびき寄せて獲る方法です。たまたま網に迷い込んできた魚やイカを海の恵みとしていただく漁法で、獲物を追いかけて回して獲るほかの漁法とは異なります。

#### 体長は最大3メートル超

さてそのクロマグロ、どのような一生を送っているのでしょうか。



5歳、体長1.5メートルのクロマグロ

産卵場は、大きく2つ、日本の南方(沖縄〜台湾の沖)と日本海にあります。初夏に生まれたクロマグロは、夏に本州沿岸にやってくる。2〜3歳になると太平洋の沖合を遊泳するようになりますが、なかには、太平洋を横断してカリフォルニア沿岸まで渡り、そこで数年過ごすものもいます。産卵は早ければ3歳から始まります。寿命は20歳以上と考えられています。体の大きさは、2歳ごろ1メートル、5歳までに1.5メートル、10歳で2メートル、最大で3メートルを超えます。大槌や釜石あたりに来るクロマグロはおもに、これから太平洋に旅立とうとする、せいぜい80センチほどの若魚(「めじまぐろ」として売られています)、それと太平洋沖合、あるいはカリフォルニア沿岸から戻ってきて、そろそろ産卵の準備を始めようかという1メートルを超えるサイズのものになります。ほかの地域に比べるとさまざまなサイズのものが見れるのが特徴です。

#### 直径1ミリしかない卵

3メートルにもなるクロマグロ。逆にその卵の大きさをご存知ですか。実は卵の直径はたった1ミリほどしかありません。ほかの魚、たとえばメダカの卵なんかと変わらなのです(サケの卵・イクラは例外的に大きいと考えてください)。クロマグロは、アリよりも小さなサイズで生み落とされ、人間よりもはるかに大きく成長して一生を終える生き物だというわけです。

ただ、近ごろ3メートルを超える大物が漁獲されることはまれになってきました。養殖用にめじまぐろが沢山獲られて、大きなサイズになるまでにほとんどが獲りつくされてしまっているからです。今後もクロマグロが食卓に上り続けるためには、三陸で行われている定置網漁のような、必要な分だけ頂くとしたマグロ資源にやさしい漁業を広めていく必要があるのかもしれない。

東京大学大気海洋研究所・国際沿岸海洋研究センター准教授

北川 貴士



きたがわ たかし  
北川 貴士

1972年滋賀県生まれ。専門は魚類行動生態学。専門の研究を分かりやすく伝えることをモットーに。著書に「マグロはおもしろい 美味のひみつ、生き様のなぞ」(講談社文庫)がある。

#### 「質問コーナー」

皆さんからの質問をお待ちしています。

住所、氏名、連絡先(電話番号など)を明記し  
〒0281102 大槌町赤浜21061 東京大学  
大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターへ。ファクス0193(42)5612でも受け付けます。選ばれば、次回以降のこのコーナーで質問にお答えします。